

次世代IPネットワーク推進フォーラム
研究開発・標準化部会 ホームネットワークWG
報告書

平成19年3月

目次

1 はじめに	1
2 ホームネットワークWGの設置の経緯	1
3 ホームネットワークWGの目的	1
4 会合の開催状況	1
5 今後の活動	5
(参考資料)	6

1 はじめに

本報告書は、平成18年11月8日に次世代IPネットワーク推進フォーラム研究開発・標準化部会にホームネットワークWGが設置されてから、平成19年3月20日に開催された第3回会合までの活動状況を取りまとめたものである。

2 ホームネットワークWGの設置の経緯

ホームネットワークは、各種フォーラム等において、円滑な実現に向けた標準化が検討されてきたが、業種間を横断した研究開発、相互接続試験、実証実験等の技術的な検討のほか国際標準化等の政策的な検討が必要になってきた。

このような状況からホームネットワークの実現と円滑な導入が急務であることから、ホームネットワークに関心を有するメンバーが、集中的に検討が進められるように、通信・放送事業者、ベンダー、サービス提供者、学識経験者等の15団体から設置の要請があり、次世代IPネットワーク推進フォーラム(以下「フォーラム」という。)の研究開発・標準化部会に、フォーラムの規約第3条に掲げる事業を具体化するため、研究開発・標準化部会設置要綱第5条に基づき、ホームネットワークWGが設置された。

3 ホームネットワークWGの目的

ホームネットワークWGは、次世代IPネットワーク推進フォーラム研究開発・標準化部会活動方針のもとに、利用者とユビキタスネットワークを結びつける次世代のホームネットワークについて、産学官が結集してホームネットワークの相互接続実験、実証実験を総合的に検討すると共に、研究開発・標準化等を戦略的に推進する。

具体的には、以下のとおり。

- ・ 重要な標準化項目に関する研究開発の推進方策の検討
- ・ ホームネットワークに関する標準化及び標準化に必要な相互接続試験等の推進
- ・ ホームネットワークの標準化を円滑に進めるための普及啓発
- ・ ホームネットワークに関するフォーラム等関係機関との連携及び調整

4 会合の開催状況

ホームネットワークWGは3回、これを推進するための計画SWGは2回、計5回の会合が開催された。以下に、会合の開催状況を示す。

4.1 第1回ホームネットワークWG(平成18年11月8日)

平成18年10月27日のホームネットワークWGの設置要請文書に基づき、次世代IPネットワーク推進フォーラム研究開発・標準化部会で文書審議が行われ、11月1日付けで設置が承認された。

平成18年11月8日に第1回のホームネットワークWGが開催され、次の事項が取り扱われた。

(1) ホームネットワークWGのリーダー等の就任について

リーダーとして、浅谷研究開発・標準化部会の指名により、北陸先端科学技術大学院大学助教授の丹 康雄氏が、サブリーダーとして、沖電気工業の高呂 賢治氏が就任した。

(2) ホームネットワークWGの設置要綱について

研究開発・標準化部会設置要綱第5条のワーキンググループに係る規定に基づき、必要な事項について定めたホームネットワークWG設置要綱が承認された。(参考資料1参照)

(3) ホームネットワークWGの活動方針について

ホームネットワークへの取組に対する重要性が高まる中、ホームネットワークWGの主要な課題、HN - WGの役割、計画 SWG の設置、ホームネットワークの活動予定などを示した、ホームネットワークWGの活動方針(案)が承認された。(参考資料3参照)

(4) アンケートの実施について

研究開発・標準化等の項目の洗い出しや優先順位付けについて検討するため、ホームネットワークWGの構成員を対象として、次のアンケートを実施することが承認された。

- ・アンケート : 今後取組む課題として、ホームネットワークの研究開発、標準化、普及促進に係るテーマに関するアンケート調査
- ・アンケート : 参加団体の推薦に係るアンケート調査
- ・アンケート : ケーブル系サービスのメディアホームネットのアーキテクチャ勧告(J.190 勧告)の見直しに係るアンケート調査

(5) その他

ホームネットワークWGのチュートリアルとして、次のとおり講演が行われた。

- ・情報家電関係のTTCの活動状況について(高呂サブリーダー)
- ・ホームネットワークの現状とこれから(丹 リーダ)

4.2 第1回計画 SWG(平成18年12月5日)

(1) アンケート結果を踏まえた今後取組むべき課題について

第1回ホームネットワークWGにて決定されたアンケートの集計に基づき、検討等を次のとおり行った。

- ・アンケート : 今後取組む課題(研究開発・標準化等)は、時間をかけて十分に審議し、方針を年度内にまとめる。追加意見を引き続き募集する。
- ・アンケート : 参加団体の推薦を得て加入促進、常時、参加団体を募集(特にサービス及びソフト関係事業者の参加が必要)
- ・アンケート : J.190 勧告見直しに係る意見の検討は、改定素案検討グループを設置して、更に検討を深め推進する。

ア J.190 勧告改訂素案(骨子)は、18年末を目途に作成する。

イ 当該活動を通じて関係団体とも連携して、情報通信審議会の関係委員会等の審議を経て、2月のITU-T SG9 ラポータ会議の寄与文書として提出。

また、平成19年6月に開催されるSG9会合へ、我が国から提出するJ.190 勧告の

改定案の骨子となるように取組む。

(取組み結果としては、改訂素案検討グループによるメール審議及び2回の改定素案検討の会合の審議により骨子(改定課題と対処方針)をまとめた。これを基に連携先の関係団体の社団法人情報通信技術委員会(TTC)の次世代ホームネットワークシステム委員会等が寄与文書を作成し、情報通信審議会のホームネットワーク合同WG(HN合同WG)の審議を経て同ラポータ会議に提出した。)

(2) 実証実験の取組み(19年3月)について

総務省が主体となって実施する実証実験が紹介され、構成員からは実験項目の提案、実験への参画を積極的に行うことになった。

4.3 第2回ホームネットワークWG(平成19年1月11日)

(1) 新メンバーについて

前回ホームネットワークWG会合以降、ホームネットワークWGに加入した5団体、オブザーバーとして加入した2団体が紹介された。

今後も、常時、参加募集を行い、当該WGの活動を拡大して行くことが確認された。

(2) J.190 勧告の改定作業の検討状況について

J.190 勧告改訂素案(骨子)を確認し、関係団体(TTC)での寄与文書の作成を確認した。

(3) 今後取組むべき課題について

- ・ アンケートにより得られる研究開発、標準化、普及促進の課題について、これを3月中にまとめ、新年度から具体的な作業方針を打ち出して行くことが説明され了承された。
- ・ 作業方針案の作成を行うにあたり、次の担当者の指名が行われ了承された。
 - ア 研究開発の課題：日本電気(株)の新井氏
 - イ 標準化の課題：三菱電機(株)の横谷氏
 - ウ 普及促進の課題：ソニー(株)の瀧塚氏
- ・ アンケートによる提案について、提案各社から概要説明が行なわれ、提案内容の審議が行われた。

4.4 第2回 計画SWG(平成19年2月9日)

(1) 今後取組むべき課題に係る作業方針について

作業方針案作成担当者の3名から提案を受け、審議が行われた。審議の結果、次の事項が確認された。

- ・ 研究開発、標準化、普及促進が三位一体となった作業が必要
- ・ 検討を推進する上で、アーキテクチャイメージの認識統一を行うことが必要
- ・ 当該イメージを統一するにあたりアドホックグループ1を設置して作業を行う。
また、アドホックグループ1への参加募集を行う。

(アドホックグループ1では、2～3月の約1ヶ月間に2回の会合とメール審議が精力的に行われた。)

4.5 ホームネットワークWG第3回(平成19年3月20日)

(1) J.190勧告の改定関連状況について

- ・2月のITU-T SG9ラポータ会議において、わが国から提出され改定案骨子は反対もなく合意が得られたことが紹介された。
- ・4月にも再度SG9ラポータ会議が開催されることから、関係団体のTTCの次世代ホームネットワークシステム委員会が、J.190勧告改訂素案の提出を検討している旨紹介された。

(2) ITU-Tのホームネットワーク関連SGの動向について

- ・NGN-GSI北京会合(1月)において、NGNリリース2の範囲でホームネットワークのアーキテクチャの作業が開始されることが紹介された。
- ・SG15、SG16で汎用のアーキテクチャの検討が行われており、これらの検討状況も視野に入れた検討が必要の旨、紹介された。

(3) 今後取組むべき課題に係る作業方針について

- ・アドホックグループ1の活動報告が行われ、「ホーム網のアーキテクチャイメージの検討報告」が提示された。(参考資料4参照)
- ・引き続きアドホックグループ1で、サービス毎の参照点モデルの検討を深めることになり、これを行うにあたり、構成員からアンケートにより意見を求めることになった。とりまとめは、4月中旬とされた。

(4) アドホックグループの設置について

今後のアドホックグループの設置について、次のとおり確認された。

- ・アドホックグループ1の検討の進捗を踏まえて、整理された課題について個々に具体的な検討を行う新たなアドホックグループを今後設置する。
- ・また、ITU-Tのホームネットワーク関係のSGで審議が活発になってきたことから、この状況に対応するため、ITU-Tアドホックグループを設置する。
- ・各アドホックグループによりまとめられたものは、関係団体と連携し規格化などを行うことを視野に入れ対応を行う。

(5) 今後の検討スケジュールについて

- ・今後の検討スケジュールは、「次世代IPネットワーク推進フォーラム研究開発・標準化部会ホームネットワークWG年間計画表」に基づき作業を行うことが確認された。(参考資料5参照)
- ・今後は、アドホックグループ1の検討結果を待って、更に詳細な具体化を行う。

(6) その他

- ・3月7日～3月9日の3日間、NICTけいはんなオープンラボで行われたホームネットワークの相互

接続に関する実証実験の様子が、総務省及びTTCから紹介された。

5 今後の活動

今後の活動は、研究開発関係、標準化関係及びこれらを進める上で密接に関係する普及促進関係に取り組むこととしており、年間計画を策定して推進する予定である。

(1)研究開発関係

今後取り組むべき課題は、現在、作業方針を検討しているアドホックグループ1で検討中であるが、この検討結果を踏まえて、必要なアドホックグループ又はSWGを立ち上げて活動を拡大して行く予定である。

アドホックグループ等で取り扱われる課題は、現在、次の項目が上げられている。

- ・エンド・トゥ・エンドQoS
- ・ID(番号)やアドレスの考え方
- ・レイヤ毎の認証機構
- ・ゼロコンフィグ
- ・障害切りわけなどの保存、運用も各レイヤで課題
- ・アンケートにより抽出される課題

(2)標準化関係

現在、ITU-TのSG9、SG13、SG15、SG16などにおいて、ホームネットワークのアーキテクチャ等の標準化の論議が活発化していることから、これに対応するITU-Tアドホックグループを設置して対応する予定である。

また、研究開発関係で、検討の結果がまとまるような状況となった場合は、その進捗に合わせ積極的に仕様や標準等になるようにアドホックグループを新たに設置して対応を行う予定である。

(3)普及促進関係

ホームネットワークの普及促進を行う観点から、他団体との連携を図ると共に、当該WGにおいて勉強会やホームネットワークの相互接続の実証実験等を計画的に主催して、円滑な活動の展開を図る予定である。

(参考資料)

1 研究開発・標準化部会 ホームネットワークWG設置要綱

2 研究開発・標準化部会 ホームネットワークWG参加者名簿

**3 次世代IPネットワーク推進フォーラム 研究開発・標準化部会ホームネットワークワーキンググループ
活動方針**

4 ホーム網のアーキテクチャイメージの検討報告

5 次世代IPネットワーク推進フォーラム研究開発・標準化部会ホームネットワークWG年間計画表